

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

PN - JP9252832 A 19970930
PD - 1997-09-30
PR - JP19960098992 19960327
OPD - 1996-03-27
TI - HAIR DRIER WITH DANDRUFF BRUSH
IN - MOTOI OSAMU
PA - FUKAI KOGYO KK
IC - A45D20/12 ; A45D19/02 ; A46B15/00
©WPI / DERWENT

TI - Hair dryer with dandruff removing brush used after hair washing - includes groups of alternating pores and brush hairs formed in concentric circles on outer surface of filter case provided inside removing brush that is attached to air intake opening of main body
PR - JP19960098992 19960327
PN - JP9252832 A 19970930 DW199749 A45D20/12 004pp
PA - (FUKA-N) FUKAI KOGYO KK
IC - A45D19/02 ;A45D20/12 ;A46B15/00
AB - J09252832 The hair dryer has a main body (1) formed with an air intake opening. A dandruff removing brush (2) with a detachable skirt (21) is attached to the air intake opening.
- The brush includes a case (25) inside which a filter (26) is stored. Groups of alternating brush hairs (27) and pores (28) are formed in concentric circles on the outer surface side of the case. Each brush hair is perpendicular to the case surface.
- ADVANTAGE - Ensures hair cleaning because dandruff removal occurs at same time as hair brushing. Removing brush can be detached from main body by one hand. Enables simple replacement and cleaning of removing brush. Rubbish and dandruff does not adhere to heater of dryer by arranging filter in front of dryer fan. Does not cause e.g. dandruff dispersal.
- (Dwg.2/3)

OPD - 1996-03-27

AN - 1997-530197 [49]

1, 2, 3, 4, 10, 14, 15, 16, 17

22

© PAJ / JPO

PN - JP9252832 A 19970930
PD - 1997-09-30
AP - JP19960098992 19960327

IN - MOTOI OSAMU
PA - FUKAI KOGYO KK
TI - HAIR DRIER WITH DANDRUFF BRUSH
AB - PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a sanitary dandruff brush scattering no dandruff.
- SOLUTION: This hair drier is constituted of a drier main body1 and a dandruff brush 2 fitted at the air intake port 12 of the drier main body 1. The dandruff brush 2 is provided with a skirt section 21 and a brush section 22, the brush section 22 is constituted of a comb plate 25 incorporating a filter 26 and brush hair 27 vertically planted on the comb plate 25, and many mesh fine holes 28 are provided through the comb plate 25 at the portion except for the planting position of the brush hair 27 of the comb plate 25.
I - A45D20/12 ;A45D19/02 ;A46B15/00

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-252832

(43)公開日 平成9年(1997)9月30日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	序内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 D 20/12			A 4 5 D 20/12	Z
	19/02		19/02	C
A 4 6 B 15/00			A 4 6 B 15/00	E

審査請求 未請求 請求項の数4 FD (全4頁)

(21)出願番号 特願平8-98992

(22)出願日 平成8年(1996)3月27日

(71)出願人 000112576

フカイ工業株式会社

大阪府箕面市西宿1丁目21番4号

(72)発明者 本射 治

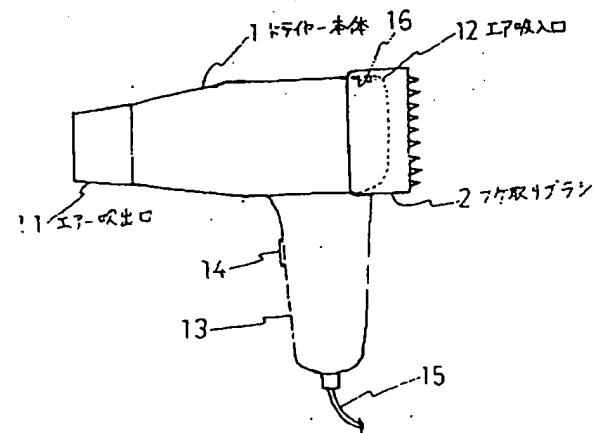
大阪府箕面市西宿1丁目21番4号 フカイ
工業株式会社内

(54)【発明の名称】 フケ取りブラシ付きヘアドライヤー

(57)【要約】

【課題】 フケの飛散しない衛生的なフケ取りブラシを提供する。

【解決手段】 ヘアドライヤーはドライヤー本体1とこのドライヤー本体1のエア吸入口12に装着されたフケ取りブラシ2からなる。フケ取りブラシ2はスカート部21とブラシ部22を有しており、ブラシ部22はフィルター26が内蔵された樹板29と、この樹板29に垂直に植え込まれたブラシ毛27から構成されており、樹板29のブラシ毛27植え込み位置を除く部分に樹板29を貫通して多数のメッシュ細孔28が設けられている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ドライヤー本体のエア吸入口にフケ取りブラシを着脱自在に取り付けてなり、該フケ取りブラシがドライヤー本体への取付け部であるスカート部とフケ取り用のブラシ部を有してなり、該ブラシ部が、フィルターが内蔵された樹板と、該樹板に垂設されたブラシ毛からなり、樹板のブラシ毛垂設部分を除く部分に該樹板を貫通して多数のメッシュ細孔が設けられてなる、フケ取りブラシ付きヘアドライヤー。

【請求項2】 樹板にブラシ毛とメッシュ細孔が同心円状に複数列配設されるとともに、ブラシ毛とメッシュ細孔が交互に配設された請求項1に記載のヘアドライヤー。

【請求項3】 フケ取りブラシを装着した時に温風スイッチが入らないようにしてなる請求項1または2に記載のヘアドライヤー。

【請求項4】 モーターの回転数を二段切換式にしてなる請求項1～3のいずれかに記載のヘアドライヤー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はヘアドライヤーに関する、より詳しくは、本発明は、フケ取りブラシをワンタッチで脱着できるようにしたヘアドライヤーに関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、ヘアドライヤーとフケ取りブラシは別体になっており、洗髪して濡れた髪を整える際にはヘアドライヤーを使用し、雲脂(フケ)を取る際にはフケ取りブラシを使用するというように、目的に応じて2つの道具を使い分けていた。ところが、従来のフケ取りブラシは、雲脂が廻りに飛散するため、非常に不衛生なものであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、如上の事情に鑑みてなされたもので、雲脂の飛散しない衛生的なフケ取りブラシを提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、上記の課題を解決するために銳意検討の結果、ヘアドライヤーに専用のフケ取りブラシを接続することに想到し、本発明を完成した。即ち、本発明は、ドライヤー本体のエア吸入口にフケ取りブラシを着脱自在に取り付けてなり、該フケ取りブラシがドライヤー本体への取付け部であるスカート部とフケ取り用のブラシ部を有してなり、該ブラシ部が、フィルターが内蔵された樹板と、該樹板に垂設されたブラシ毛からなり、樹板のブラシ毛垂設部分を除く部分に該樹板を貫通して多数のメッシュ細孔が設けられてなる、フケ取りブラシ付きヘアドライヤーである。ここで、ブラシ部は、樹板にブラシ毛とメッシュ細孔が同心円状に複数列配設されるとともに、ブラシ毛とメッシュ

細孔が交互に配設された構成にするのが好ましい。また、ドライヤー本体は、フケ取りブラシを装着した時に温風スイッチが入らないようにするのが好ましく、モーターの回転数は二段切換式にするのが好ましい。尚、ここで、メッシュ細孔とは、網目状に形成された細孔をいい、同心円状に形成された細孔を含む。

【0005】

【発明の実施の形態】 次に本発明の実施例について図面に基づいて説明する。図1は本発明の実施例を示す平面図であり、図2は図1の要部拡大断面図(ドライヤー本体の内部は省略)、図3は図1に示す樹板においてブラシ毛とメッシュ細孔の配列状態の一例を示す図である。図1に示すように、本発明のヘアドライヤーはドライヤー本体1とこのドライヤー本体1のエア吸入口12に装着されたフケ取りブラシ2からなる。フケ取りブラシ2はスカート部21とブラシ部22を有しており、ブラシ部22はフィルター26が内蔵された樹板25と、この樹板25に垂直に植え込まれたブラシ毛27から構成されており、樹板25のブラシ毛27植え込み位置を除く部分に樹板25を貫通して多数のメッシュ細孔28が設けられている。

【0006】 ドライヤー本体1は、図1に示すように、エア吹出口11とエア吸入口12、取っ手13を有しており、取っ手13にはスイッチ14と接続コード19が設けられている。ドライヤー本体1としては通常の市販されているドライヤーが採用可能である。ドライヤー本体1には、過熱による事故を防ぐために、エア吸入口12の近くに温風スイッチが入らないようにするためのスイッチ16を設けてもよい。この場合、例えばフケ取りブラシ2を装着した時にスカート部21によって押されてスイッチ16が入るように構成すればよい。また、ドライヤー本体1のモーター(図示していない)の回転数は、自由に風量を選択することができるよう二段切換式、例えば二段切換式にするのが好ましい。

【0007】 フケ取りブラシ2は、ドライヤー本体1のエア吸入口12への取付け部分であるスカート部21と、雲脂取り用のブラシ毛27を備えたブラシ部22からなる。スカート部21は、ドライヤー本体1のエア吸入口12に着脱自在に装着可能な形状、例えば、エア吸入口12付近の形状に合わせて円筒状に形成されており、その内径はエア吸入口12付近のドライヤー本体1の外径に等しい。ブラシ部22は、樹板25と、この樹板25に垂直に植え込まれたブラシ毛27からなる。樹板25にはフケ取りブラシ2の軸方向に貫通して多数の網目状の細孔(メッシュ細孔28)が穿設されており、ドライヤー本体1が駆動したときに、その内蔵されたファン(図示していない)によってエアを吸引することができるようになっている。また、樹板25は浅い箱状の前板251と平板状の後板252からなり、フィルター26が内蔵されている。そして、樹板25の内部に吸

引されたフケが外に出ないように、フィルター26と前板251の間には若干の隙間が設けられている。フィルター26は前板251と後板252の間に挟持されるようにもよく、また、前板251と後板252で構成される空間に収容されるようにもよい。このフィルター26によりエアが吸引されるときに一緒に吸引される雲脂がドライヤー本体1の中に入らないようになっている。

【0008】ブラシ毛27とメッシュ細孔28は、製造を容易にするために、例えば檻板25の中心に関して同心円状に複数列になるように配設し、かつブラシ毛27とメッシュ細孔28は交互に配設するのがよい。尚、フィルター26としては、特に限定するものではないが、網目上のフィルター(メッシュフィルターといふ)や層状のフィルター(デブスマルチフィルターといふ)など色々考えられる。フィルター26を檻板25の前板251と後板252の間に挟持する場合には、メッシュフィルターが採用され、例えばポリアミドやポリエスチルなどのフィラメントを網目に纏ったものが好適に採用できる。また、フィルター26を檻板25の前板251と後板252で構成される空間に収容する場合には、デブスマルチフィルターが採用され、例えばポリプロピレンの焼結体などが好適に採用される。

【0009】

【発明の効果】以上説明してきたことから明らかなように、本発明のフケ取りブラシ付きヘアドライヤーを採用

することにより、次のような効果を奏すことができる。

①ブラッシングと同時にフケを吸い込むようになっているので清潔である。

②ワンタッチで脱着できるのでフケ取りブラシの交換、洗浄が容易である。

③ドライヤー本体のファンの前にフィルターが設けられているので、ヒーター部分にゴミやフケが付くことがない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例を示す平面図である。

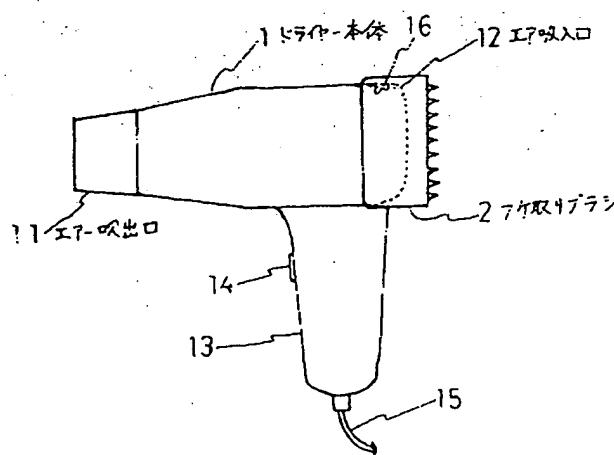
【図2】図1の要部拡大断面図である(ドライヤー本体の内部は省略)。

【図3】図1に示す檻板においてブラシ毛とメッシュ細孔の配列状態の一例を示す図である。

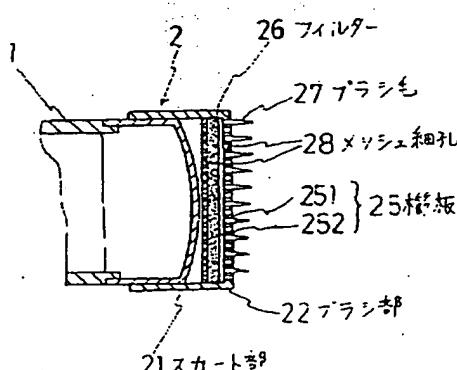
【符号の説明】

- 1 ドライヤー本体
- 11 エア吹出口
- 12 エア吸入口
- 13 ブラシ部
- 14 ブラシ毛
- 15 メッシュ細孔
- 16 ブラシ取りブラシ
- 2 フィルター
- 21 スカート部
- 22 ブラシ部
- 25 檻板
- 26 フィルター
- 27 ブラシ毛
- 28 メッシュ細孔

【図1】



【図2】



【図3】

